

A そう思う

B 大体そう思う

C あまりそう思わない

D そう思わない

精華幼稚園教育目標		ひとり立ちする子	自己評価	学校関係者評価委員会から	
				評価	意見
三つの重点	1 経験・体験の幅の拡大	【教師の営み】精華幼稚園は、日々教師も一緒に加わって子どもたちの遊びを盛り上げている。また、集いや行事や園外保育なども積極的に企画し、子どもたちの経験や体験の幅を広げさせようとしている。	A	A	・節分の集いの日の朝、先生たちが園庭で鰯を焼いていた。匂いに誘われて覗いてみると、たくさん子どもたちが楽しそうに先生たちを取り囲んでいた。一事が万事。子どもたちの経験の幅の広がり的一端を見た。後の豆まきも、一段と気合が入っていた。 ・いつ来てみても子どもたちは自然体で迎え入れてくれる。精華幼稚園の「園を開く。教育を開く。」という姿勢が、子どもたちのふれあい力を向上させている。 ・帰宅したわが子が、今日先生がああ言った、こう言ったと、よく話をしてくれる。よく聞いているんだなあ、いつも感じる。 ・毎日園庭で全園児揃ってさようならをする前、先生の話に対して、「はい。」という子どもたちの返事が園に響き渡る。本当によく聞いている。
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは期待したとおりの広がりや深まりを見せてきている。	A	A	
	2 人間関係調整力の伸長	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	A	
	3 聞く態度・聞き取る力の育成	【教師の営み】精華幼稚園は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちの話を聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	A	A	

教育目標具現に向けて育てたい七つの子ども像	1 自由遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	A	・先生たちが、全体を見ながらも個人個人をよく見、瞬時にその子のその場での可能性を見抜いている。 ・先生の声かけで、子どもたちは自信を持って遊びを続けている。 ・先生が回す長縄に、年少児、年中児、年長児が入り混じって跳んでいる。みんなと手をつないで「花いちもんめ」に興じる先生がいる。朝の園庭は、子どもと教師が溶け合って毎日活気づいている。 ・こいのぼりの集い、七夕の集い、節分の集い、ひな祭りの集いなど、先生たちは子どもたちの心を鼓舞させようと、盛り上げ役に徹している。 ・子どもたちは本当に楽しそうである。 ・先生たちは、促し、見守り、結果を認めるといった基本姿勢を根気強く貫いている。 ・子どもたちは「できた。」と嬉しそうに教師に知らせ、教師は子どもたちの気持ちを共感的に受け止め、喜んでいる。 ・他園に比べれば子どもたちはずいぶんしっかりと挨拶する。 ・親の挨拶が増え、園庭が一層明るくなったように感じる。 ・先生たちはみんな聞き上手である。子どもの声にじっくり耳を傾けている。 ・子どもたちに語りかけるときの先生たちの言葉が優しくきれいだ。子どもたちにとって、よい言葉環境が設定されていると言える。子どもたちの口から汚い言葉を耳にしたことがない。 ・まつぼっくりを使っただけの廃材遊びを家でも行っている。自然との出会いが生かされている。 ・日本古来からの行事を丁寧に扱ってくれている。社会事象の意味、背景にも目を向けさせてくれている。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはみなこのびのびと遊びを楽しんでいる。	A	A	
	2 集団遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりを促したりする。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	A	
	3 園行事に楽しく参加する子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で行事に子どもの思いを反映させている	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	A	
	4 自分のことは自分でやれる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人でやり抜こうとする。	A	A	
	5 美しくあいさつのできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら挨拶のこだま返しを誘っている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは「おはよう」「さようなら」をしっかりと返している。	B	A	
	6 美しくお話しのできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にゆったりと耳を傾けて、思いをしっかりと受けとめる。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、」と話し出す。	A	A	
	7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇（経験・体験）の広がりを求めて、積極的に園外保育に出かける。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がりは、確かな歩みを見せている。	B	A	